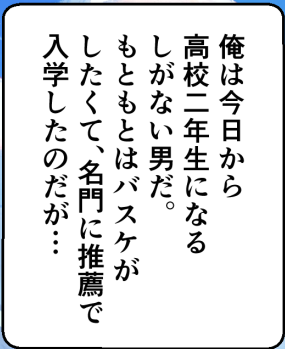



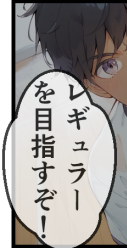
あー
いい天気だなあ



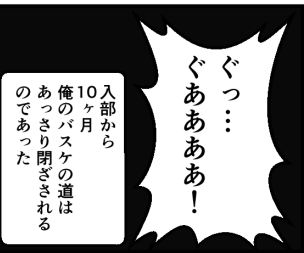
俺は今日から
高校二年生になる
しかない男だ。
もともととはバスケが
したくて、名門に推薦で
入学したのだが…



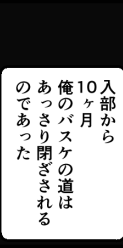
さすが名門！
俺も負けずに
練習して



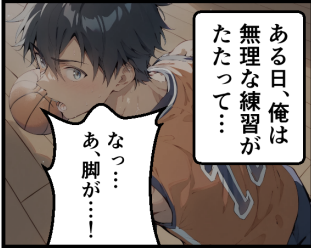
レギュラー
を目指すぞ！




ぐっ…
ぐああああ！




入部から
10ヶ月
俺のバスケの道は
あっさり閉ざされる
のであった



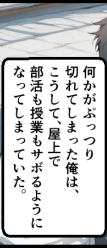
ある日、俺は
無理な練習が
たたって…



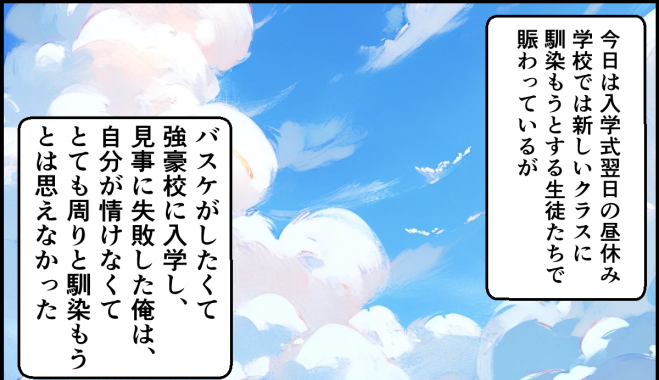
なっ…
あ、脚が…！



部のみんなは
ここで諦めるのは
もったいないと
部に籍は置いてくれて
いるものの…




何かがぶつたり
切れてしまった俺は、
こうして、屋上で
部活も授業もサボるよう
になっ てしまった。



今日は入学式翌日の昼休み
学校では新しいクラスに
馴染もうとする生徒たちで
賑わっているが

バスケがしたくて
強豪校に入学し、
見事に失敗した俺は、
自分が情けなくて
とても周りと馴染もう
とは思えなかった



…そろそろ
戻るか

そう思い、
身体を起こそうと
した時だった

誰かが
屋上に来る気配…？
ほとんど俺以外に
来る人なんて
いないのに…誰だ？

キッ


テ..

テ
テ
テ

ど
こ
に
寝
転
が
っ
て
る
ん
で
す
か
っ
!

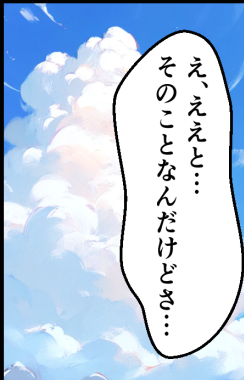
せんぱ……ひゃっ!
びっくりしたあー!

うおっ……パンツが……
ん?この子、もしかして
中学のときの……?




昨日は始業式だったし、先輩は今日から部活ですよ？実はですね、あたしも…

うーん…
やっぱり
誤解してる
よなあ…



え、ええと…
そのことなんだけどさ…

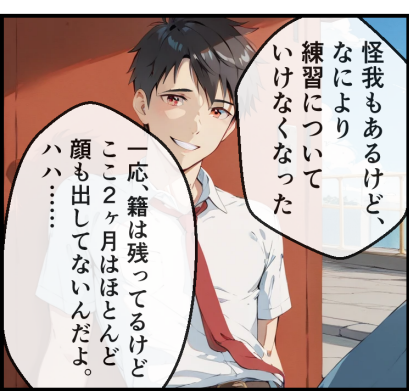


あ、あの先輩が？
自分からバスケを？



えー!?

怪我で
バスケを
諦めたあ!?



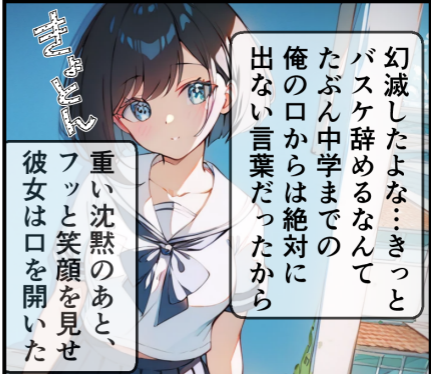
怪我もあるけど、
なにより
練習について
いけなくなった

一応、籍は残ってるけど
ここ2ヶ月はほとんど
顔も出してないんだよ。
ハハ……



先輩…あたしね

先輩のおかげで
変わったんです



きょん
重い沈黙のあと、
フツと笑顔を見せ
彼女は口を開いた

幻滅したよな…きつと
バスケ辞めるなんて
たぶん中学までの
俺の口からは絶対に
出ない言葉だったから



まずはその笑顔で
みんなを元気づけて
ほしいって

あたしにしか
できないことが
あるって




部活に入ったばかりで
なかなか役に立てなくて
泣いていたあたしに



それから、
だんだん知識も
できることも
増えていった…


先輩ほどじゃない
けど、あたしも
少しはみんなの役に
立てるように
なれたんです！

自信をなくしていた
あたしは、その言葉に
本当に救われたんです




だからね、もう一度先輩に
会って、ありがとうって
言いたいって思ってる

そう思ってる、
いっぱい頑張ってる
この学校に
進学したんです



ふふっ、今の先輩
昔のあたしを
見てるみたいですよ



そう…だったのか…
それなのにこんな
情けない姿見せちゃって
申し訳ないな…



今度は
あたしが先輩の
支えになりたい



ね、先輩
あたし、先輩に会いたかった
理由がもう一つあるんです



あたしが
先輩を
笑顔にしたい



そこで、あたし
先輩にひとつ
お願いがあるんです

にーっ

もし、しばらく
部活出来ないなら
その時間、あたしに
くれませんか？

バスケ一筋な先輩に
あたしが、元気を
取り戻してあげたいです

昔の自分を知る後輩と
顔を合わせることに気まずさは
あったものの、
彼女の懐かしい声と表情に
少し話ただけでも
自然と気持ちがあがっていくの
を感じていた…



先輩って
千ヨコミント派
なんですわ(笑)

悪かったな...



ふふん
意外と勉強は
得意なんです



でも、歌は
苦手みたい
だな.....

ホエー
〜
♪



はやく
いきましょー

それから2週間
俺達はいろんな
ところへ行き、
いろんな遊びを
した



明るくて元気一杯な
彼女と過ごすうちに
自然と俺も笑顔が
溢れるようになった



やっぱ
マッ○
ですよわ〜



彼女は本当に
毎日一緒に
いてくれた



お疲れ様です
先輩！

今日も一緒に
帰りましょ！



卑屈で闇に染まった
俺の頭の中を
彼女は常に笑顔で
照らしてくれた



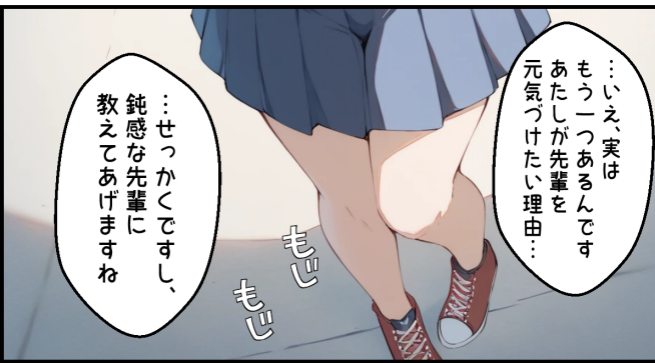
こんな…
何も取り柄が
なくなっちゃった
俺なんかに…




先輩？
どうしたんですか
浮かないお顔ですね？

あ…ごめん
きみのことで
考え事してた

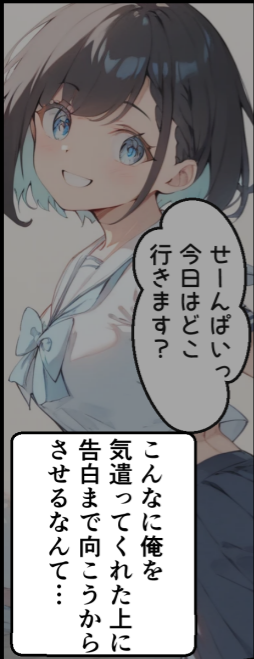
そんな彼女に
惹かれないわけが
なかった





先輩、大好きです
中学の頃からずっと

ただ、それだけの
ことですよ



せーんぱいつ
今日はどこ
行きます？

こんなに俺を
気遣ってくれた上に
告白まで向こうから
させるなんて…



……え？
い、今なんて言った？
俺のことが好き…？

嬉しいよりも
情けない気持ちが
勝った



最初こそ気丈に
笑顔だった彼女だが、
どんどん不安と緊張に
染まる彼女を見ていると

俺が男を見せないで
どうするんだと、
失いかけていた
情熱が心の底から
湧き上がる気がした



お、俺から先に言うべきなのに
先に言わせてごめん！
お…俺も！



俺も！
きみのことが好きだ！
俺と付き合ってほしい！




もういっしょに
いてくれなくなる
かもとおもって…

あたし…ほんとほ
怖かったんです…
気持ちを伝えたら



お、おい！大丈夫…

ち、違うんです！



昔みたいに、
あたしに自信を
くれませんか…！

せんぱい…！
あたしが先輩のそばにいて
いいんだって

それから俺達は、
ひとり暮らしをしている
俺の部屋に移動して…

ぐい



こんな綺麗な身体見て
笑うわけないだろ…

ドキッ♡

ドキッ♡

ドキッ♡

ドキッ♡

あ、あたしのハダカ
先輩に見られちゃってる…





あたしの

ハハハハ...



せんぱい...
きてください...

はあ
はあ
はあ

はあ
はあ
はあ



はあ
はあ
はあ

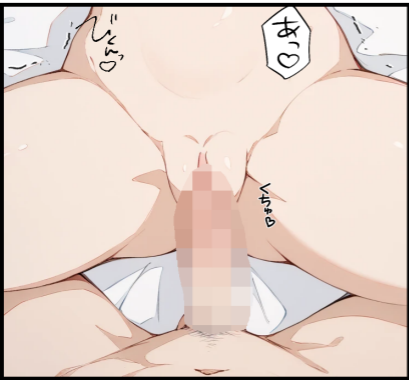
はあ
はあ
はあ

はあ
はあ
はあ

はあ
はあ
はあ



あたしに...自信を
ください...!



はあ
はあ
はあ

はあ
はあ
はあ

はあ
はあ
はあ

